

多摩薬業連携協議会の活動状況

— 第5回多摩薬業連携協議会フォーラム「お薬手帳の現状と課題」より —

多摩薬業連携協議会 **あべ ひろこ**、**しもだいら ひでお**、**もぎ とおる**、**とつか じゅんいつ**、**むらた かずや**
阿部 宏子、**下平 秀夫**、**茂木 徹**、**戸塚 淳逸**、**村田 和也**

【はじめに】

東京・多摩地区では、平成14年より地域の薬剤師相互の交流を図り、医療の発展に貢献することを目的として薬業連携協議会が発足している^{1)~6)}（ホームページ：<http://www.shimo-web.com/tamayaku.htm>）。活動としては、年2回のフォーラムを開催し、平成17年6月に第5回フォーラム「お薬手帳の現状と課題」について開催したので報告させていただきたい。

■第5回多摩薬業連携協議会フォーラム

平成17年6月21日の第5回多摩薬業連携協議会フォーラムでは、「お薬手帳の現状と課題」をテーマに病院薬剤師、薬局薬剤師の立場から以下のとおり報告があった。

1. 「薬剤管理指導にお薬手帳を活用して」

阿部 宏子（恩方病院）

恩方病院では退院後の通院治療が安全に継続できるように、入院中から薬剤管理指導においてお薬手帳を活用し、また、退院時服薬指導書（図1）をお薬手帳に添付することで入院中の患者情報提供の試みを報告した。

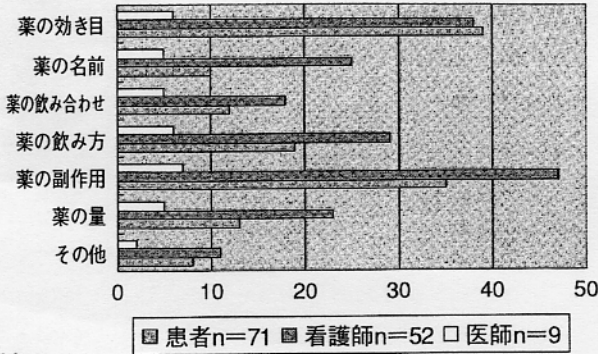
薬の説明が薬剤師の一方的な押し付けにならないように、患者さんは薬に関して何を知りたいか、また、薬剤管理指導実施病棟の看護師や主治医が薬剤師の薬剤管理指導業務において患者さんに何を説明して欲しいかをアンケート調査した。結果は、図2の通りである。患者群では効果に次いで副作用、看護師群では副作用に次いで効果が多く、医師群はすべての項目について薬剤師からの説明を希望した。

退院時服薬説明書		実施日：平成●年●月●日	
姓			
入院日	平成●年●月●日		
退院日	平成●年●月●日		
診療科	●●科		
入院時担当医	●●		
<ul style="list-style-type: none"> 退院時処方箋及びその内容：<input checked="" type="checkbox"/> 別紙参照 (薬品名、用法・用量、薬効、副作用) お薬服用(使用)時の注意点：<input checked="" type="checkbox"/> 別紙参照 (一般的な飲み忘れ時の対応、保管方法など) 		入院中の調剤情報 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (紛砕・錠力プセル・ <input checked="" type="checkbox"/> 包衣・賦形剤・剤形の嗜好・色別の目印(ライン引き等)・その他)	
保険薬局及び病院・診療所薬剤師 殿 アレルギーの有無： <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (原因物質： <input type="checkbox"/>) 薬の副作用の経験： <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (薬品名： <input type="checkbox"/>) (症状： <input type="checkbox"/>)		内容及び理由： 特記なし	
患者さまへ ・保険薬局や病院・診療所でお薬をもらう際に、この「説明書」を必ずご提示ください。お薬に関する情報を伝えることが出来ます。 ・薬局でコピーをとらせていただく場合があります。		他院からの処方箋： <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (薬品名： <input type="checkbox"/>) 一般薬、健康食品の服用： <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 () 入院中の薬の管理： <input checked="" type="checkbox"/> 自己管理 <input type="checkbox"/> 看護師管理 <input type="checkbox"/> 病院の体制により看護師管理 その他特記事項 [服薬指導の留意点、主要な検査値等]： 特記なし	
●15●		お問い合わせ先： TEL TEL(0426)51-8441 担当薬剤師 阿部 宏子	
●15●		薬局の方へ ・必要に応じてコピーをとり、保存してください。 返送時先をお知らせください。 (調査用紙を医療機関宛にご返信ください)	
●15●		●16●	

図1 退院服薬指導書を「お薬手帳」に添付

また、入院・外来を通し、チーム医療として患者支援を目的として、薬剤管理指導についての他の医療スタッフに意識調査を実施した。

・単病棟だけでなく全病棟への取り組みをお願いしたい。



2 患者が薬剤師から知りたい情報と医療スタッフが患者に教えて欲しい情報

■薬剤管理指導実施病棟看護師の意識調査結果n=52

【薬剤管理指導は患者にとって必要か？】

- ・服薬の必要性和大切さを理解し、服薬への意識が高まる。
- ・服薬自己管理の必要性が理解できる。
- ・服薬に対する認識を持つために必要だと思う。

【薬剤管理指導は患者にとって有益か？】

- ・自分（患者）がどのような薬を服用しているかを知る事ができる。
- ・服薬の必要性を理解する事により服薬への意識が高まり、怠業などによる再発防止や症状の安定につながる。

【薬剤管理指導に対する感想】

- ・図解や解り易い説明で、患者さんにとって理解し易かったと思われる。
- ・各自の服用薬のプリント（医薬品情報提供書）も配布され、それについて質問等受けるようになった。
- ・繰り返し指導を受けることにより、服薬の必要性を自覚し、またみんなで学ぶことでそれが強化されていくと思う。
- ・このプログラムが治療を自ら受け入れていく事につながると思う。

【薬剤管理指導に対する要望】

- ・繰り返し指導が必要な方もいるので、今後は患者自身ももっと参加するという形で、プログラムを継続してもらいたい。

■主治医の意識調査結果n=9

【薬剤管理指導は患者にとって必要か？】

- ・一人一人がきちんとした知識を持ち、不安なく服薬してもらうためには必要である。
- ・自分が飲んでいる薬がどんなものか解る事により、自覚が持てる。

【薬剤管理指導は患者にとって有益か？】

- ・薬を通じて自分の病気を知る事ができる。
- ・薬剤情報提供書を持ってきたり、教えてもらった事を話してきたりと、薬に対しての意識が感じられるようになった。

【薬剤管理指導に対する感想】

- ・患者にとっても解り易い説明だったと思う。
- ・患者自身が自分の病状を理解し、服薬の必要性を理解する事により、継続的な服薬につながる。また、患者と医療スタッフが歩み寄る事が、適正な処方設計につながると思われる。
- ・薬に対する不安が治療に影響を与えるため、患者にとって不安なく服薬できる事は大切である。

【薬剤管理指導に対する要望】

- ・副作用の知識は必要だが、過度な表現をするや飲まなくなってしまう人もいたので注意してもらいたい。
- ・退院時指導などは、細やかにしてもらいたい。
- ・詳しくは解らなくても、自分なりに薬の有益性が解るようになってもらいたい。
- ・患者が自分の疑問に思っている点、聞きたい点を聞きやすい環境作りが大切になると思う。
- ・他病棟でも取り組んでももらいたい。

2. 「お薬手帳の現状 保険薬局の立場から」

渡邊 清司（八王子薬剤センター薬局）

八王子薬剤センター薬局でのお薬手帳普及への取り組みが報告された。お薬手帳を持つことは、いわば自分の薬についてのカルテを持つこと「お薬手帳は、自分が飲んでいる薬の名前や飲む量などを記録しておくポケットサイズの手帳の事です。」また、「この手帳を医療機関や保険薬局に行かれた際にご提示いただくと、薬の飲み合わせや重複している医薬品をチェックしてもらう事がで

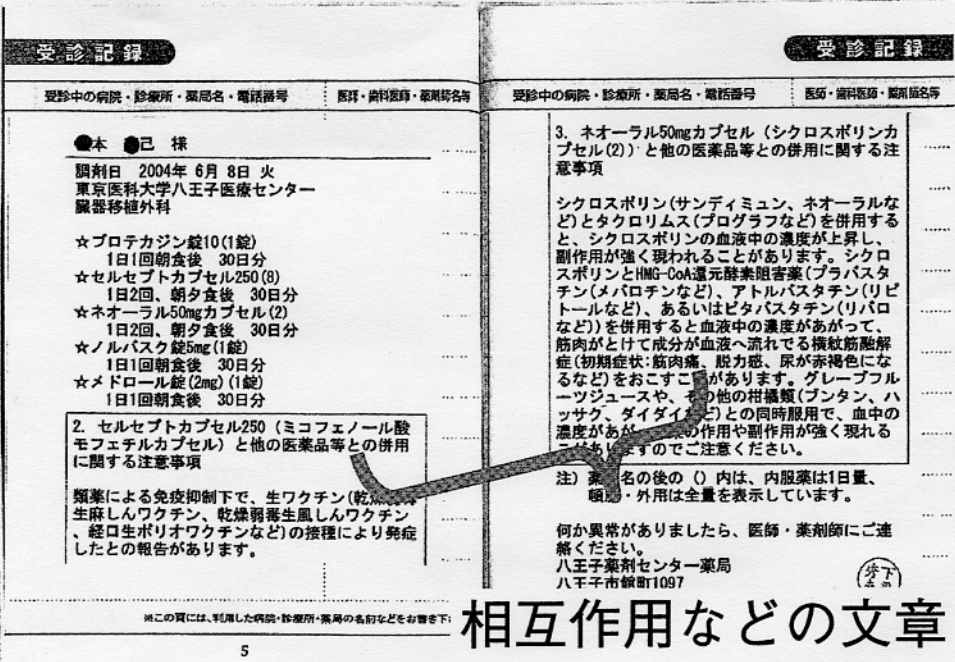


図3 お薬手帳への相互作用記載

きます。また、旅行先や災害時に服用する薬がなくなってしまう場合、手帳に記録があれば他の医療機関でも同じ薬を処方してもらうことができます。」と窓口に掲示してアピールしている。

お薬手帳の料金については、処方せん受付において「ご希望の方は手帳を無料でお渡ししておりますので職員にお申し付け下さい。なお、お薬手帳へ記入する手数料は、調剤報酬点数(薬剤情報提供料¹⁾として、お薬説明書と合わせて17点となっていますので患者さまのご加入になられている



図4 与薬窓口にて、お薬手帳に印字された相互作用情報を患者さんに説明しているところ

相互作用などの文章

3. ネオオラル50mgカプセル(シクロスポリンカプセル(2))と他の医薬品等との併用に関する注意事項

シクロスポリン(サンディミュン、ネオオラルなど)とタクロリムス(プログラフなど)を併用すると、シクロスポリンの血液中の濃度が上昇し、副作用が強く現れることがあります。シクロスポリンとHMG-CoA還元酵素阻害薬(プラバスタチン(メバロチンなど)、アトルバスタチン(リパトールなど)、あるいはビタバスタチン(リパロなど)を併用すると血液中の濃度があがって、筋肉がとけて成分が血液へ流れてる横紋筋融解症(初期症状:筋肉痛、脱力感、尿が赤褐色になるなど)をおこすことがあります。グレープフルーツジュースや、その他の柑橘類(プマン、ハッサク、ダイダイなど)との同時服用で、血中の濃度があがると副作用が強く現れることがありますのでご注意ください。

注) 薬名の後の()内は、内服薬は1日量、嚥下・外用は全量を表示しています。

何か異常がありましたら、医師・薬剤師にご連絡ください。
八王子薬剤センター薬局
八千子市鎮西1097

(分下)

保険により最高50円の自己負担となりますのでご了承ください。」と技術料と自己負担について表示し理解を求めている。

平成16年4月の調剤報酬改定でお薬手帳への相互作用(図3)の記載が追加された。

これに対応して併用禁忌の情報に加えて、金属カチオン、飲食物(アルコール、グレープフルーツジュース)による影響、健康食品等(セント・ジョーンズワート)による影響などを加えている。

図4に与薬窓口での服薬指導の様子を示した。各与薬ブースはスリガラスで仕切られている。電子薬歴端末ディスプレイ裏側(写真右側)にお薬手帳の掲示、記入についての説明を掲示している。

3. 「退院時服薬指導書での連携」

村田 和也 (日本医科大学付属多摩永山病院)

平成15・16年度医療機関と薬局の連携推進事業「退院時服薬説明(指導)書を利用した医療機関薬剤部(科)と薬局の連携に関する調査」⁴⁾、「服薬情報提供書(調査用紙)を用いたモデル事業実施後のアンケート調査(中間報告)」⁵⁾について報告された。

本事業の目的は、医療機関と薬局の連携のひと

退院時服薬説明書

服薬説明書発行日：平成 年 月 日

様

保険薬局や病院・診療所でお薬をもらう際にこの「説明書」を必ずご提出ください。
お薬に関する情報を伝えることができます。

入 院 日：平成 年 月 日
退 院 日：平成 年 月 日
診 察 科：科
入院時担当医：

- ・退院時処方箋及びその内容 (薬品名、用法・用量、薬効、副作用) : 別紙参照
・お薬服用(使用)時の注意点 (一般的な飲み忘れ時の対応、保管方法など) : 別紙参照

保険薬局及び病院・診療所薬剤師 殿

アレルギーの有無: 無 有 (原因物質:)
薬の副作用の経験: 無 有 (薬品名:)
(症状:)

入院中の薬剤情報: 無
 有 (剤形・錠・カプセル・包衣・注射剤・剤形の嗜好・色別の目印(ライン引き等)・その他)

内容及び理由:

他院からの処方箋: 無 有

薬品名:

一般薬、健康食品の服用: 無 有 ()

入院中の薬の管理: 自己管理 看護管理 病院の体制により看護管理

その他特記事項 (服薬指導の留意点、主要な検査値等):

連絡先をお知らせください (調剤所候を医療機関にご確認ください)
お問い合わせ先:

TEL

担当薬剤師

図5 退院時服薬指導書

つとして、医療機関薬剤部(科)と薬局の連携における患者情報共有化のためのツールとして、退院時服薬指導書があり、患者に対して一貫した薬物療法が入院中・退院後の双方において薬学的管理のもとに実施されるよう、医薬品の易服用性、安全性等の患者QOL向上に欠かせない情報を薬局に提供するための手段である。

平成15年度「医療機関と薬局の連携推進事業」において、東京都薬剤師会 病院診療所委員会を中心に「退院時服薬指導書(A4版)」「退院時服薬指導書(お薬手帳版)」(図5)の2案が提案された。これまでの退院時服薬指導書は医療機関の薬剤師が病院ごとに様式を作成していたものが多く、記載内容についても医療機関と薬局の間でのコンセンサスの得られたものではなかった。本事業は、薬局側の意見が取り入れられ「記載要領」が作成されたことで、記載内容について各施設で

調査期間 平成16年12月～平成17年2月末

患者さんから退院時服用説明(指導)書を受け取った薬局は、必ずこの調査用紙を医療機関にお返しください。

(別紙様式1) 薬局一医療機関医師・医療機関薬剤部(科)

情報提供元医療機関名 病院 殿

薬剤部(科)

平成 年 月 日

情報提供元保険薬局の所在地及び名称

電話

(FAX)

保険薬剤師氏名

印

患者氏名 又は No. : 診察科:
性別 : (男・女) (退院時服薬説明書を参考に
年齢 : ()歳 にご記入ください。)

退院日 平成 年 月 日 調査用紙受取日 平成 年 月 日

退院時処方剤の服薬状況(コンプライアンス)に関する情報

併用薬剤(一般用医薬品を含む)の有無(有・無)
薬剤名:

患者の訴え(アレルギー、副作用と思われる症状等)に関する情報

症状等に関する家族、介護者等からの情報

その他特記すべき事項(薬剤保管状況等)

- 注意1. 必要がある場合には、紙面に記載して添付すること。
2. わかりやすく記入すること。
3. 必要な場合には、処方せんの写しを添付すること。

〇〇病院 薬剤部(科) FAX No. ××-××××-××××

図6 調査用紙

共通の認識を持つことが可能となり、これらの様式、記載要領が周知され、汎用されれば「退院時服薬指導書」は、医療機関及び薬局双方に有用なツールと言える。16年度は、今後の連携において、医療機関及び薬局が患者情報を相互提供・共有するための方法を探るため、東京都の委託を得てモデル事業を実施した。具体的には、患者及び薬局に対して退院時服薬指導書に関するアンケート調査を実施し、また、退院時服薬指導を実施した病院に対して薬局からフィードバックされた患者の服薬状況等の情報内容を収集し、分析・評価を行い、今後の薬業連携に向けた土台とするとした。

実施方法は、患者に退院時服薬指導を行なう際、退院時服薬指導とともに調査用紙(図6)(服薬情報提供書=薬局から病院へのフィードバック用紙)を渡し、次回外来受診時に発行された処方せんと一緒に薬局に提出するように指導を行なう。

退院時服薬指導書等の提出を受けた薬局は、全ての患者において調査用紙を退院時服薬指導実施病院に返信する。そして病院において集積された患者情報について分析・評価を行なった。

調査内容は、調査用紙の返信割合の算出、薬局からフィードバックされた情報の活用方法の調査、調査用紙の内容の評価を行なった。

■退院時服薬説明書(図5参照)の形態(A4版、お薬手帳版)の選択理由、使用したメリット、デメリット等について

【A4版選択(利用者数138件)のメリット】

- ・現在、退院時服薬指導書をA4版で作成、使用しているので扱いやすい。
- ・高齢者が多いので、写真が掲載可能であることや字の大きさや文面のアレンジが調節できる。(他3件)

【A4版のデメリット】

- ・携帯に不便。
- ・薬局側も複雑な業務の中で、見るのが大変。(他3件)

【お薬手帳版選択(利用者数222件)のメリット】

- ・携帯に便利。
- ・一連の経緯として把握しやすい。(他10件)

【お薬手帳版のデメリット】

- ・字が小さく高齢者には読みづらい。
- ・お薬手帳は使わないと拒否されたため、A4版を利用せざるを得なかった。(他6件)

■フィーとバック情報の記載内容についての医療機関からの意見・感想について

【全体的に】

- ・退院後の患者状況(体調)やコンプライアンスなど、よく理解できる。
- ・退院後の服薬状況について知ることができ、退院指導・服薬指導のやり方を見直す良いきっかけとなった。(他8件)

【記載内容・項目について】

- ・入院中は飲めると思っていた剤形(散剤)が退院後飲みづらいとの理由で剤形変更(水剤に変

更)されたことがわかった。入院中は看護師が飲ませて問題がなくても、自宅では介護している人には飲ませづらいケースがあることがわかり参考になった。

- ・患者が日頃常用しているOTC薬は、入院時に持参しない事が多いので把握しにくいですが、OTC薬が記載されていたので役に立った。(他9件)

■本事業を実施したことによる病院側のメリット、デメリットについて

【メリット】

- ・退院時服薬指導を患者にアピールできた。
- ・当院の発行した処方せんが多くて多くの薬局で調剤されていることがわかった。(他18件)

【デメリット】

- ・患者(特に高齢者)に本事業の主旨を理解させるのに時間がかかる。
- ・患者の理解度によっては情報がフィードバックされない。(他8件)

■本事業に対する意見・感想、お薬手帳、かかりつけ薬局、薬薬連携について

【意見・感想】

- ・退院時服薬指導情報及び医療機関へのフィードバック情報による患者情報の共有化は、熟成されれば薬剤業務として非常に有用と考察できる。
- ・退院後、服薬されているかどうかを病院の薬剤師では調べるのが難しいが、この調査で把握できた。(他27件)

【お薬手帳・かかりつけ薬局について】

- ・お薬手帳を持っている患者は多いが、もらった事があるという意識で現在利用されていない。受診した病院の隣の薬局でお薬手帳をそれぞれもらっていることがあり、かかりつけ薬局が理解されていないように思われる。
- ・患者が「お薬手帳」の活用方法がわからないのではないかと。入院中から「お薬手帳」の活用方法も含めた指導が必要と考える。(他15件)

【薬業連携について】

- ・今後、このような情報交換を相互に発行し、病院薬剤師と薬局薬剤師が連携することで、多くの患者に安心して薬を服用していただけるよう努力していきたい。ただし、個人情報保護法の法制化で、これらの内容も患者の同意が必要となるとどうなるのか、今後の動向を見ていきたいと思う。
 - ・退院時の服薬指導の統一ができると、連携がしやすい事がわかった。地区ごとに話し合いを持ちたい。
- (他4件)

【その他】

- ・個人情報の取り扱い是非常に難しい問題であり、疾患名や検査値など、病院側から外部へどこまで情報提供することができるか、今後の課題だと思う。
- (他5件)
- 以上の意見がアンケートに寄せられた。

【退院時服薬指導書を通じた連携】

平成16年度の調査用紙の薬局からフィードバックされた有効回答数は219件、返信を受けた薬局数は119件、返信率は52%であった。

服薬歴や副作用歴を共有することは、安全で有効な薬物治療の継続性を保つために必須である。情報を共有することにより、過去に無効であった薬物の再使用や副作用による治療・入院などを防止し、医療費削減に貢献できると考える。

病院薬剤師と薬局や薬剤師との連携により、価値ある情報を交換し、薬に貢献するとき、患者からも薬剤師の価値が再認識される事が望まれる。

【まとめ】

今回は、病院薬剤師と薬局薬剤師双方からお薬手帳の現状について報告された。また、パネルディスカッションでは、病院薬剤師の退院時服薬指導書やお薬手帳の発行に関して、患者の退院情報の入手の問題や多忙を極める業務から負担が大き

い等の意見があがった。

病院薬剤師は、初診時や入院時の持参薬やOTC薬、過去の副作用歴の情報が治療上重要な情報となる。また、退院後、一貫した薬物療法の管理を実施するために、入院中の調剤情報、服薬状況、服薬指導の留意点や理解度に関する情報を薬局薬剤師に提供することが安全な継続加療につながると思う。

退院時や通院加療途中で院外処方せんが発行された場合、患者さんを介して薬局薬剤師に情報提供ができるように「お薬手帳」を活用することで患者情報の共有化になるのではないかと考える。

今後も病院薬剤師と薬局薬剤師の連携システムを構築するために、薬剤師会、病院薬剤師会が協力して、これらの問題を解決していく必要があると考える。

【文献】

- 1) 東京・多摩地区の薬業連携協議会の活動紹介：日本薬剤師会雑誌 Vol.55, 第6号, 679-682, 2003
- 2) Next ステージ 病院と薬局の薬剤師が団結, 多摩地区薬業連携協議会:薬事日報 第9801号, 2003.8.22
- 3) 病院と薬局の情報連携も模索,退院時服薬説明書の活用を推進:薬事日報 第9977号, 2003.10.4
- 4) 多摩薬業連携協議会の紹介-第一回シンポジウム報告を兼ねて:薬局 Vol.54, No.12, 2949-2957, 2003
- 5) 15年度 医療機関薬剤部(科)と薬局の連携推進事業,「退院時服薬説明(指導)書を利用した医療機関薬剤部(科)と薬局の連携に関する調査」実施報告書:社団法人東京都薬剤師会 平成16年3月
- 6) 16年度 医療機関薬剤部(科)と薬局の連携推進事業,「医療機関薬剤部(科)と薬局の推進モデル事業」実施報告書:社団法人東京都薬剤師会 平成17年3月
- 7) 多摩薬業連携協議会の活動状況-ホームページの開設と第1回~4回フォーラム開催を中心に-,都薬雑誌Vol.27, No.5, 2005